

平成 27 年度
公益財団法人つくば科学万博記念財団
事業報告書

自 平成 27 年 4 月 1 日
至 平成 28 年 3 月 31 日



はじめに

公益財団法人つくば科学万博記念財団（以下「財団」という。）は、国際科学技術博覧会の意義と成果を継承し、わが国の科学技術の振興に寄与するため国際科学技術博覧会記念基金を活用し、「つくばエキスポセンターの運営」「科学技術の普及啓発、人材育成、国際交流および科学技術に関する産業界、大学、公的研究機関の連携促進に関する事業」等を行っている。

平成 27 年 7 月に公募により決定した新しい代表理事のもと、財団事業の効率化、センターの魅力向上、人材育成の強化等に取り組んだ。特に、来館者の視点に立った展示等の実施、関係機関との連携強化、情報発信の充実等に配慮した運営を行った。1985 年に開催された国際科学技術博覧会から 30 周年を迎え、つくばエキスポセンター（以下「センター」という。）を中心に記念行事を実施したことに加えて、センターの累計入館者数が、開館（1986 年 4 月 18 日）以来 29 年 4 カ月で 500 万人を突破した。博覧会やセンターの活動に関する社会的な記事・ニュースが数多く報道されるなど社会的な関心を集めた年であった。

中国や欧州経済の不透明感、日銀のマイナス金利導入、米政策金利利上げをめぐる動向など不安定な金融情勢を背景に、低金利に加え、為替が平成 27 年度当初に比べ円高傾向にあるなど、博覧会記念基金の運用は非常に困難な状況が続いている。平成 28 年度・29 年度には多くの債券が償還を迎える予定であり、運用利率の底上げを図るため、運用ルールの見直しや体制の変更等の検討を開始した。

平成 27 年度事業計画に従い実施した事業は以下のとおりである。

I. 事業の実施状況

1. つくばエキスポセンターの運営

来館者の科学技術に対する興味関心の喚起と理解増進を図り、将来の科学技術を担う青少年の育成に資するため、筑波研究学園都市の立地を活かし、大学や研究機関、自治体と連携し、展示、催事、プラネタリウム等各事業を実施した。

事業の展開にあたっては、自治体、教育機関及び研究機関等と連携・協力し研究機関の活動紹介展示、特別展の開催、プラネタリウムオリジナル番組の監修、シンポジウムの共催など事業内容の充実に努め、科学技術の情報交流等科学館としての機能を強化した。

1-1. 入館者

平成 27 年度の入館者数は 179,322 人であり、国際科学技術博覧会の 30 周年記念イベントを企画する等により平成 26 年度から 3,550 人の増加となった。ま

た、入館者数は、平成 27 年 8 月に昭和 61 年（1986 年）開館時からの累計 500 万人を突破した。

また、平成 28 年 3 月末時点の年間パスポート会員数は、昨年度比 50 人増の 2,957 人であった。

個人での来館、団体利用の促進、年間パスポート会員を増やすための取り組みとして、センターのホームページの活用をはじめ、イベントガイド、チラシ、ポスターを制作し、周辺自治体、教育機関、観光関係事業者、公共交通機関（つくばエクスプレス）などに配布・設置した。このほか、各種媒体に広告掲載を行った。つくばサイエンスツアーや「つくばちびっこ博士」など自治体等の活動と連携・協力しセンターの利用につなげたほか、観光キャンペーン等でセンターの活動紹介を行った。年間パスポート会員のうち、情報配信を希望した会員（平成 28 年 3 月末時点 585 人）に対し、センターのイベント情報を毎月電子メールで配信した。

表 - 1 入館者数

年度/月	4～6 月	7～9 月	10～12 月	1～3 月	計
26	41,700	68,905	36,958	28,209	175,772
27	39,750	69,819	38,996	30,757	179,322
年度増減	△1,950	914	2,038	2,548	3,550

表 - 2 プラネタリウム鑑賞者数

年度/月	4～6 月	7～9 月	10～12 月	1～3 月	計/平均
26	25,690	44,736	22,442	18,254	111,122
入館者比 (%)	62	65	61	65	63
27	23,532	44,902	23,441	20,255	112,130
入館者比 (%)	59	64	60	66	63

表 - 3 団体利用者数

年度/月	4～6 月	7～9 月	10～12 月	1～3 月	計
26	9,186	11,171	11,610	4,740	36,707
27	8,609	11,290	10,973	4,481	35,353
年度増減	△577	119	△637	△259	△1,354

1-2. 展示【公益 1】

(1) 1 階展示場・エントランスホール

- ① 「おもしろサイエンスゾーン」「エネルギーゾーン」において、夏の特

別展で製作した「3Dの虹」など光に関する展示物を追加した。

- ② 来館者が気楽に立ち寄って科学体験を楽しめるように、「なんでも科学相談コーナー」を「楽しい科学 体験・相談コーナー」に名称変更し、サイエンスコミュニケーションを促進した。
- ③ 「サイエンスワークス 科学者のしごと」において、「江崎玲於奈賞」「つくば賞」などつくば発の顕彰制度とその受賞に関する展示を追加した。「科学者からのメッセージ」については、データベース化し、自由に閲覧できる展示とした。
- ④ 「サイエンスシティつくば再発見」において、筑波研究学園都市にある研究機関の活動を紹介し、地域の研究機関との連携・交流を進めた。「産業技術総合研究所 地質調査総合センター（3～5月）」「住友林業株式会社 筑波研究所（6月～8月）」「国立科学博物館筑波地区（9月～11月）」「茨城県窯業指導所・筑波大学辻村研究室（12～2月）」「国立環境研究所（3月～5月）」の活動をパネル等により紹介するとともに、展示期間中に講演会や工作教室などを開催した。
- ⑤ 「科学万博—つくば’85 メモリアルゾーン」では、「80年代の科学技術」の展示品の追加、映像の更新を行った。

(2) 2階展示場

- ① 「夢への挑戦—のぞいてみよう科学がひらく未来—」において、物質・材料研究機構の協力を得て、ナノアートギャラリーの展示パネル等の追加に着手した。また、筑波大学の協力を得て、「未来の手術を体験、バーチャル手術のいろいろ」を実施した。スポット展示として、「未来の医療を体験『エアロタップ』」の展示を行い、生命医療分野の展示の充実を図った。
- ② 「創造の森“ワンダーラボ”」では、サイエンスショーや講演等を実施した。エキスポ探検隊では、万博ツアーの中で万博展示の解説やバックヤードツアーを行った。
- ③ 3Dシアターのコンテンツについて、「ちきゅう」「月の形成」など新コンテンツを追加した。収容人数の増加を含め一層の活用を進めるために平成27・28年度の2カ年で1階への移設を行う予定であり、本年度はスクリーン等を購入した。
- ④ サイエンスギャラリーにおいて、「科学技術の『美』パネル展」について、平成27年度受賞作品26点を追加した。ギャラリースペースに「第59回茨城県児童生徒科学研究作品展県南地区展」や「宇宙の日 全国小・中学生作文絵画コンテスト作品展示会」の作品を展示した。

- ⑤ 科学の進展や目覚ましい成果を迅速に紹介するため、理化学研究所の協力を得て、新たに 113 番元素に関する展示を設置したほか、日本人ノーベル賞受賞者のパネル展示、専門家による「重力波」「中間子」をテーマとする講演を行った。

(3) 屋外展示場

- ① わが国の科学技術の発展を支えた開発機器の実物展示について、関係機関との連携を図り情報収集、展示交渉を進めた。
- ② 新しい体験展示物として、「滑車の仕組み」をテーマに「かっしゃくん」(公募による名称)を製作し、運用を開始した。27年3月に植樹した「ニュートンのリンゴの木」の育成を進めた。「メンデルのブドウの木」に関しては、東京大学大学院理学系研究科附属植物園に育成を依頼した。
- ③ 「南極専用小型雪上車」については、南極 OB 会茨城支部と連携してメンテナンス及び幌の張替及びアイテム展示追加の検討を行った。
- ④ 屋外環境を活かし、昼間の天体観望会を行った。
- ⑤ 原子力発電環境整備機構に協力し、コミュニケーション 3D シアタージオ・ミライ号による高レベル放射性廃棄物の地層処分の移動展示を行った。

1-3. 催事【公益1】

(1) 定例催事

身近な科学現象や科学トピックスをテーマに「サイエンスショー」「科学教室」「エキスポ探検隊」「天体観望会」を定期開催した。また、新しい取り組みとしてボランティアインストラクターによる「科学入門講座」を平成 27 年度から開始した。

① サイエンスショー

身近な科学として科学現象をテーマにショー形式でわかり易く説明するサイエンスショーについては、「シャボン玉」や「身近な気体」、展示に関連するテーマとして「超低温の世界」や「深海の世界」など 12 のテーマで計 144 回を実施した。

<テーマ一覧>

4 月	シャボン玉
5 月	身近な気体
6 月	超低温の世界
7 月	深海の世界

8月	大気圧
9月	ドライアイス
10月	飛ぶ
11月	光の七変化
12月	色イロな水
1月	静電気
2月	空気砲
3月	シャボン玉

② 科学教室

工作を通して科学の原理等を学ぶ科学教室については、「風船ホバークラフト」「ビーズの万華鏡（特別展の一環として実施）」等の21テーマ、計141回を実施した。

<テーマ一覧>

春休み	ミニ空気砲
4月	水笛
ゴールデンウィーク	竹とんぼ、立体万華鏡
5月	ホログラムゴマ
6月	風船スライム
7月	バランストンボ
夏休み	光るキーホルダー、UVチェックストラップ、光るスライム、ビーズの万華鏡
9月	さかさま水コップ
シルバーウィーク	CDゴマ、ふしぎなプロペラ
10月	風船ホバークラフト
11月	虹色万華鏡
12月	アロマキャンドル
1月	ぐにゃぐにゃ凧
2月	手作り my カイロ
3月	ゴム動力飛行機
春休み	竹とんぼ

③ エキスポ探検隊

展示物を分かりやすく説明するエキスポ探検隊については、「カーボンナノチューブ」「つくば科学万博ツアー」など4テーマ、計48回を実施

した。

<テーマ一覧>

4月・5月 8月・9月 12月・1月	つくば科学万博ツアー
6月・7月	南極
10月・11月	カーボンナノチューブ
2月・3月	国際宇宙ステーション

④ 天体観望会

観察に適した天体をテーマに7回実施した。また、天文トピックスとして皆既月食をテーマに臨時天体観望会を実施した。

<テーマ一覧>

4月（臨時）	皆既月食
5月	北極星
7月	土星
8月	夏の大三角
9月	リング星雲 M57
11月	アンドロメダ銀河
1月	ぎょしゃ座のカペラと3つの散開星団
3月	木星

⑤ 科学入門講座

「熱気球」や「ヘリトンボ」など専門性を必要とするテーマについては科学入門講座とし、ボランティアインストラクターによる提案に基づき、12回実施した。

<テーマ一覧>

4月	クロマトアート
5月	ラジオ工作
6月	数とプログラミング
7月	光を分ける
8月	光のマジック
9月	水ロケット
10月	熱気球工作
11月	紙飛行機工作
12月	顕微鏡観察
1月	踊り子モーター

2月	燃料電池をつくりミニカーを動かそう
3月	ヘリトンゴ

(2) 特別催事

- ① 科学技術の大きなテーマについて体験しながら理解を深めるための催事として「数のひみつ～くらしの中の数学～（平成27年春季）」「ひかり～身近な光の科学～（平成27年夏季）」「飛ぶひみつ（平成28年春季）」を開催した。

a. 「数のひみつ～くらしの中の数学～」

テーマ：数

会期：平成27年3月21日（土祝）～6月7日（日）

来館者数：37,252人 ※26年度同期 39,029人

b. 「ひかり～身近な光の科学～」

テーマ：ひかり

会期：平成27年7月18日（土）～8月31日（月）

来館者数：48,582人 ※26年度同期 50,261人

c. 「飛ぶひみつ」

テーマ：飛ぶ

会期：平成28年3月25日（金）～6月12日（日）

来館者数：4,653人（27年度分） ※26年度同期 4,122人

これらの特別展は企画段階を含め研究機関や企業など関係機関の協力を得て、開催した。

特別展「数のひみつ」では東京理科大学近代科学資料館等の協力を得た。一方、近代科学資料館の「アインシュタイン展」に、当センターの特別展「ひかり」の展示物品の貸し出しを行い、相互協力関係の構築を進めた。

特別展「ひかり」では産業技術総合研究所等の協力を得た。

また、特別展「飛ぶひみつ」では、宇宙航空研究開発機構、日本航空株式会社、森林総合研究所等の協力を得た。

② ミーツ・ザ・サイエンス

研究者の生の声を聞いて科学技術の関心を高めるミーツ・ザ・サイエンスについては、南極から戻ったつくばの研究者の声を聞く「南極の今！つくばに戻った隊員たち語る」（9月21日（月祝））、高エネルギー加速器研究機構との共催による「チョコレート・サイエンス バレンタインバージョン」（平成28年2月11日（木祝））を開催した。これらのイベントを通して、多くの来館者が参加し、つくばの研究者と来館者との直接

の交流促進が図られた。

- ③ 国際科学技術博覧会から 30 周年を記念し、文部科学省科学技術・学術政策研究所 科学技術動向研究センターの協力を得てミニ企画展「科学技術の未来予測」(9 月 17 日 (木) ~3 月 17 日 (木)) を開催したほか、15 周年の際に製作したタイムカプセルの開封・封入セレモニーなどを開催した。また、10 月に文部科学省、茨城県の後援を得て、つくば市との共催により「科学技術の未来予測 in つくば」(10 月 4 日 (日)) を開催した。未来の科学技術に関する研究者の講演、市内の中学生の発表も行い、282 名の参加を得た。

また、「再来！科学万博コンパニオン～つくば’85 を思い出してみよう～」(3 月 17 日 (火) ~9 月 16 日 (水)) を実施し、エキスポ探検隊「つくば科学万博ツアー」(4 月~1 月、計 12 日) を実施した。ミニ企画展として「映像博と万博の華～科学万博を支えた立役者～」(9 月 19 日 (土) ~9 月 23 日 (水祝)) を開催し、ミニ企画展のダイジェスト展示 (10 月 1 日 (木) ~平成 28 年 1 月 11 日 (月祝)) も開催した。

- ④ その他主催・共催事業
- a. 全国同時七夕講演会の一つとして、高エネルギー加速器研究機構と共催し、「織り姫星と彦星が生まれるまで」を開催した (7 月 5 日 (日))。
 - b. トヨタ自動車 (株) と共催し、自動車のバンパーのしくみを理解し、工作する科学のびっくり箱！なぜなにレクチャーを開催した (平成 28 年 2 月 28 日 (日))。
 - c. ジオネットワークつくばが主催する「ジオネットの日」に共催し、館内化石さがし等イベントを開催した (平成 28 年 3 月 6 日 (日))。
 - d. 文部科学省等が主催する「宇宙の日」記念行事 全国小・中学生作文絵画コンテストに参加科学館として共催し、作品展示会 (10 月 31 日 (土) ~11 月 29 日 (日)) と表彰式 (11 月 29 日 (日)) を開催した。
 - e. 「魔法の板『カプラ』で遊ぼう」を開催し、第 2 回全国児童館・科学館・美術館対抗 KAPLA 大会に来館者の作品をエントリーした (8 月 21 日 (金)、22 日 (土))。

- ⑤ 季節イベント
- 季節の変化に対応したイベントを科学館の観点から取り組むため「七夕の星空に願いをかけよう！」(7 月 1 日 (水) ~7 月 7 日 (火)) や「おり紙オーナメントとクリスマスカードづくり」(12 月 5 日 (土) ~12 月 25 日 (金)) などを開催した。

⑥ プラネタリウムイベント

当館で制作しているプラネタリウムオリジナル番組の効果を一層高めるとともに、関心を広めるため、監修者による講演会「流れ星の魅力&注目のオリオン座流星群」(10月18日(日))や「一般相対性理論と宇宙」(平成28年1月23日(土))を開催した。また、科学トピックの重力波発見について、オリジナル番組監修者による『重力波発見！特別講演会「重力波のひみつ」』(平成28年3月21日(月祝))を開催した。

1-4. プラネタリウム【公益1】

プラネタリウム、全天周デジタル投影システムを活用し、センター独自の「オリジナル番組」および「星空生解説」を四半期ごとに企画・制作し上映した。「こども番組」「特別番組」を約半期毎に入れ替え上映した。

平日は星空生解説1回、オリジナル番組2回、特別番組1回に加え、学校からの要望に応じ学習番組等の上映を1回行った。土日祝日、春・夏休み期間は、星空生解説1回、オリジナル番組2回、こども番組2回(12・1月の平日は1回)、特別番組1回の上映を行った。特に、ゴールデンウィーク(5月2日(土)～6日(水))、お盆期間(8月13日(木)～16日(日))、シルバーウィーク(9月20日(日)～23日(水))は、1日の上映回数を増やして(7回)上映した。

より快適に、より多くの入館者にプラネタリウムを観覧して頂く取り組みとして外国人ボランティアの協力も得ながら実施している字幕、副音声(日本語、英語)、補聴援助機器(タイループ)サービスにも積極的に取り組んだ。加えて、団体利用など大人数での利用の便に供するため、受信機の増設を行った。

また、音響編集機器を更新し番組の視聴及び制作環境の充実を図った。

オリジナル番組のうち「楽しい星座さがし」などの7作品(平成26年度4作品)が他の博物館、科学館8館(平成26年度6館)で上映されるなど他館での星空、天文の普及活動に貢献した。

(1) 平成27年度上映実績

オリジナル 番組	宇宙はカラフル～星の色の秘密～	3月7日(土)～5月31日(日)
	楽しい星座さがし～絵本作家H.A.レイの世界～	6月6日(土)～8月31日(月)
	流れ星のひみつ	9月4日(金)～11月29日(日)
	時をかける宇宙の旅	12月5日(土)～平成28年2月28日(日)
	宇宙のはてのむこう側	3月5日(土)～5月29日(日)

星空生解説	見上げてみよう！ 今日の星空-春-	3月7日（土）～5月31日（日）、 平成28年3月5日（土）～5月29日（日）
	見上げてみよう！ 今日の星空-夏-	6月6日（土）～8月31日（月）
	見上げてみよう！ 今日の星空-秋-	9月4日（金）～11月29日（日）
	見上げてみよう！ 今日の星空-冬-	12月5日（土）～平成28年2月28日（日）
こども番組	おじゃる丸 銀河がマロを呼んでいる～ふたりのねがい星～	3月7日（土）～6月28日（日）
	ちびまる子ちゃん 星に願いを	7月4日（土）～平成28年1月31日（日）
	名探偵コナン～探偵たちの星月夜～	平成28年2月6日（土）～6月19日（日）
特別番組	MUSICA 宇宙はなぜ美しい？	平成26年10月1日（水）～平成27年4月17日（金）
	富士の星暦	4月21日（火）～9月11日（金）
	AURORA NIGHT	9月12日（土）～平成28年4月17日（日）
冬季番組	手ぶくろを買いに	12月5日（土）～平成28年1月30日（土）
学習番組	小中学校からの要望に基づき、「夏・冬の星座と大三角」「月の満ち欠け」をテーマに適宜実施。	

(2) 字幕付き投影、日本語・英語副音声の上映及び機器の貸し出し件数

字幕投影 73回

副音声（イヤホン） 日本語 27件／英語 251件

補聴援助機器（タイループ） 日本語 29件／英語 1件

(3) 平成27年度オリジナル番組の他館上映実績

番組タイトル	上映館	上映期間
星空にうたう	ソフィア堺	平成26年4月26日（土）～

		平成 27 年 4 月 25 日(土)
超新星爆発	神奈川工科大学厚木市子ども科学館	平成 26 年 12 月 8 日(月)～ 平成 27 年 6 月 7 日(日)
超新星爆発	川口市立科学館	平成 26 年 12 月 13 日(土)～ 平成 27 年 12 月 12 日(土)
ブラックホールツ アーヘ ようこそ	新潟県立自然科学館	平成 27 年 9 月 19 日(土)～ 12 月 13 日(日)
ゴッホが描いた星 空	コニカミノルタサイエンス ドーム (八王子市)	平成 27 年 10 月 17 日(土)～ 平成 28 年 11 月 30 日
実験プラネタリウ ム	夢と学びの科学体験館 (愛知県)	平成 27 年 12 月 12 日(土)～ 平成 28 年 2 月 7 日(日)
はじめてのそら	ベネッセ・スター・ドーム (多摩市)	平成 27 年 12 月 5 日(土)～ 平成 28 年 12 月 4 日(日)
楽しい星座さがし	東大和市立郷土博物館	平成 28 年 3 月 18 日(金)～ 7 月 7 日(木)

1-5. 学会・協議会等活動への参加・協力【公益1】

プラネタリウムオリジナル番組（字幕付き版、日本語版、英語版）の制作経験をまとめ、平成 27 年 9 月に郡山市ふれあい科学館で開催された第 6 回国際科学映像祭で成果として発表した。また、番組制作のこれまでの事績をまとめた論文を「Revolve IPS Conference Warsaw 2016」（国際プラネタリウム学会（International Planetarium Society）主催）に投稿し審査を通過した（平成 28 年 6 月にポーランドで発表予定）。

科学系博物館における展示の新しい可能性をテーマに「第 23 回全国科学博物館協議会研究発表大会」（平成 28 年 2 月）でセンターの事例について口頭発表した。

「全国科学館連携協議会」「全国科学博物館協議会」「日本ミュージアム・マネージメント学会」「日本プラネタリウム協議会」「茨城県次世代エネルギーパーク推進協議会」「つくばサイエンスツアー実行委員会」「日本展示学会」の活動に参加・協力した。

1-6. 施設・設備の修繕【公益1】

節電及び安全強化対策の観点から、館内照明の LED 化推進（昨年度比約 4%の電気使用量を削減）、プラネタリウム・展示場・事務室用空調機等の交換、休憩

室のPタイル張り替え工事、このほか設備の定期点検において経年劣化が認められた機器等（蓄電池）の更新など、施設・設備の修繕を計画的に実施した。

1-7. ミュージアムショップ、駐車場の運営並びに施設の利用促進【収益1】

(1) ミュージアムショップ、駐車場の運営

入館者の科学技術に対する理解の増進に資するため、科学館に相応しい品の充実を努めながら、特別展の開催に合わせた売り場づくりや季節を意識した飾り付け等販売環境の整備にも力を入れ、ミュージアムショップの運営を行った。

国際科学技術博覧会30周年を記念し、科学万博当時のデザインを復刻した菓子及びバッジなどのオリジナルグッズを中心に販売を展開した。科学万博のマスコットマークを冠したデザインの効果もあり、春から秋にかけての売り上げ増に寄与し、前年度より12%の売り上げ増となった。

他に、入館者の利用に供するため駐車場を平日は無料で、土・日・祝日及び春・夏休み等の繁忙期は有料で運営した。駐車場の収入は、ほぼ前年同であった。

(2) 施設の利用

センターの利用促進及びサービスの充実を目的に引き続き外部事業者によるレストランの運営、SL等イベントの実施を委託した。

また、地域貢献に資するため、「まつりつくば2015スポーツパーク」にSL広場下スペースを有料貸与した（8月22日（土）、23日（日）の2日間、来場者数14,000名）。その他に、センターの運営に支障のない範囲で、休憩室等も有料で貸与した。

2. 科学技術の普及啓発、人材育成、国際交流および科学技術に関する産業界、大学、公的研究機関の連携促進に関する事業

2-1. 普及啓発・人材育成事業【公益2】

(1) 青少年科学啓発

- ① 全国ジュニア発明展は、27年度第17回より、文部科学省の後援を得て、開催した。応募者数は、8,543点で前年度と比較して、658人増加した。11月21日（土）表彰式では、最優秀賞作品（2点）に、文部科学大臣賞が授与された。なお、入選数は47作品（小学生部門22点、中学生部門25点）であった。
- ② 科学技術週間において、一日館長の実施、期間中のセンター入館料割引を行うとともに、研究施設一般公開に対する支援を行った。
- ③ 第11回全国物理コンテスト「物理チャレンジ2015」を共催し、優秀な参加者（高校生実験部門第1位）に対し財団理事長賞を授与した。

- ④ 第 8 回日本地学オリンピック「ぐらんぷり地球にわくわく」を共催し、優秀な参加者（中学生参加者の成績第 1 位）に対し財団理事長賞を授与した。
- ⑤ 「第 16 回全国中学生創造ものづくり教育フェア」を共催し、技術・家庭分野等各部門の優秀な参加者に対し財団理事長賞を授与し、受賞作品をセンターで展示した。
- ⑥ 「第 15 回高校生ものづくりコンテスト全国大会」（九州）を共催した。
- ⑦ 「第 5 回科学の甲子園茨城県大会」を共催し、最優秀チームに対し財団理事長杯を授与し、当該チームの生徒および成績上位校に対し記念品を贈呈した。
- ⑧ 茨城県教育委員会等が主催する第 59 回茨城県児童生徒科学研究作品展・発明工夫展県南地区展の開催に協力した。
- ⑨ 「マイクロマウス 2015(第 36 回全日本マイクロマウス大会)」を共催し、各部門の高校生以下の成績最優秀者に対し財団理事長賞を授与した。
- ⑩ 「つくばチャレンジ 2015」を共催した。

（2）参加体験型科学教育活動

ボランティアインストラクターの参加を得て、幼稚園、学校、公民館等に対して実験機器貸出、科学出前教室、サイエンスショー等のアウトリーチ活動を実施した。実施件数は 99 件、受講者数は 9,518 人（平成 26 年度は、110 件、11,935 人）であった。

このほか、「科学体験キャンプ in いわき」として 12 月 6 日（日）に福島県いわき市で体験型科学教室を実施した（子どもゆめ基金（国立青少年教育振興機構）助成事業）。

（3）科学技術映像

映像を通して、科学技術の理解増進や関心の一層の拡大を目指し、公益財団法人日本科学技術振興財団等との共催で「第 57 回科学技術映像祭」を、一般財団法人日本視聴覚教育協会等との共催で「第 14 回全国こども科学映像祭」を実施した。また、各映像祭の入賞作品上映会をセンターで行った。全国こども科学映像祭の表彰式は、12 月 12 日（土）にセンターで実施した。

（4）科学館連携事業

- ① 全国科学館連携協議会が実施する、科学館職員が海外経験を広く積むための「平成 27 年度海外科学館視察研修」に対し助成を行った。
- ② ぐんまこどもの国児童会館他 2 館でエネルギー展示物、公益社団法人日

本アイソトープ協会武見記念館で「科学技術の『美』パネル展」CD、「切手で見える世界の科学技術の発展」CDの巡回展を実施した。

(5) その他

つくば市教育研究会理科教育研究部・理科主任研修会の開催に協力した。

小・中学校（11校24名）の職場体験の実施に協力した。学芸員養成の博物館実習生（3名）を受け入れた。

2-2. つくばサイエンスニュース【公益2】

筑波研究学園都市にある研究機関や大学等がプレス発表した科学技術研究活動の成果をウェブサイト上で分かり易く伝える「つくばサイエンスニュース」（週刊）については、創刊以来10年目を迎えた。

発行回数は52回（平成26年度は51回）であった。ポスター・チラシの掲示（124か所）、地方情報誌への広告掲載（2誌）、他機関ホームページ等とのリンク（3か所）、つくば研究支援センター「メールマガジン」での掲載を行い、周知活動に努めたものの、ページビュー数の増加にはつながらず（101,744PVで、平成26年度比約12%減）、内容の刷新を含め改革に着手した。

2-3. 国際交流推進事業【公益2】

筑波研究学園都市で実施される国際シンポジウムに対する支援として、「第2回グリーンマテリアル及び先進キャラクターゼーションに関する日仏シンポジウム（GMAC2015）」「ICOFOM（国際博物館学委員会）第38回国際シンポジウムの開催」に対して、助成を行った。

2-4. 産・学・官研究機関の連携促進事業【公益2】

筑波研究学園都市交流協議会が実施する「筑協 FM ラジオ番組放送事業（サイエンスQ）」に対し助成を行った。

一般財団法人茨城県科学技術振興財団つくばサイエンス・アカデミー主催の「第10回SATつくばスタイル交流会」「SATテクノロジー・ショーケース2016」を共催し、「SATフォーラム2015」に対する後援を行った。

2-5. 語学研修事業【収益2】

筑波研究学園都市の研究機関や大学等の研究者等を対象に文部科学省研究交流センターと共催で英語研修を実施した。34機関から295名（平成26年度は、38機関、306名）が参加した。

3. 科学技術関係団体等に関する事業【他 1】

東京分室において、「科学技術団体連合」および「牧友会」の事務局業務を行った（東京分室は平成 27 年 9 月に移転した）。

Ⅱ. 公益財団法人の運営等に関する事項

1. 評議員会・理事会の開催

(1) 評議員会

(開催日)		議題
平成 27 年 6 月 26 日 (金)	第 9 回評議員会 (定時)	<p>決議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 26 年度決算報告書(案)について ・理事の選任(案)について <p>報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 26 年度事業報告書について ・第 13 回通常理事会決議事項について ・財団事業 5 カ年計画にかかる 10 年後の総合評価について ・財団事業経営の今後の方向についての基本的考え方
平成 28 年 3 月 28 日 (月)	第 10 回評議員会 (臨時)	<p>決議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理事の選任(方法)について(案) <p>報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 28 年度事業計画書について ・平成 28 年度収支予算書、資金調達及び設備投資の見込みについて ・第 16 回通常理事会決議事項について ・資産運用に関する諸規程の改正について ・平成 28 年度基金の運用方針について(運用計画)

(2) 理事会

(開催日)		議題
平成 27 年 6 月 5 日 (金)	第 13 回理事会 (通常)	<p>決議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 26 年度事業報告書(案)について ・平成 26 年度決算報告書(案)について ・第 9 回定時評議員会の招集について(案) <p>報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常勤理事の選任に係る公募結果について ・基金運用状況と見通しについて ・職務執行状況報告 ・財団事業 5 カ年計画にかかる 10 年後の総

		<p>合評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・財団事業経営の今後の方向についての基本的考え方
平成 27 年 7 月 1 日 (水)	第 14 回理事会 (臨時)	<p>報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 9 回定時評議員会における役員選任結果について <p>決議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・代表理事・理事長の選定について(案) ・相談役の選任(案)について ・重要な使用人(つくばエキスポセンター館長)の選任(案)について <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評議員への第 14 回臨時理事会(平成 27 年 7 月 1 日開催)の決議事項のお知らせ
平成 27 年 12 月 10 日 (木)	第 15 回理事会 (臨時)	<p>報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理事長職務執行状況報告 ・専務理事職務執行状況報告
平成 28 年 3 月 10 日 (木)	第 16 回理事会 (通常)	<p>決議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 28 年度事業計画書(案)について ・平成 28 年度収支予算書(案)、資金調達及び設備投資の見込み(案)について ・重要な使用人の選任について(事務局長)(案) ・第 10 回臨時評議員会の招集について(案) <p>報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理事長職務執行状況報告 ・専務理事職務執行状況報告 ・資産運用に関する諸規程の改正について ・平成 28 年度基金の運用方針について(運用計画) ・組織の変更について

(3) 監査

平成 27 年 5 月 15 日 (金) ~ 17 (日) 公認会計士による監査
平成 27 年 6 月 2 日 (火) 監事監査

2. 資産運用

(1) 運用

① 運用収入

為替レートの円高傾向の継続により、基本財産・特定資産の合計で予算を下回る利息収入額となったが、債券の入替に伴う売却益により、運用収入全体では、予算を約 7.2 百万円上回る収入を得た。

② 償還(解約)・売却及び購入

償還	ロイヤル・バンク・オブ・スコットランド ^① ワーリバースステュアル債	3 億円	変動
購入	三菱 UFJ 証券ホールディングス ^② ワーリバースステュアル債		変動
売却	第 109 回日本高速道路保有・債務返済機構債	1 億円	1.814%
購入	第 48 回ソフトバンクグループ債		2.130%
解約	期日前解約特約付リバース型変動金利定期預金	3 億円	変動
購入	第 1 回ソフトバンク劣後債	0.3 億円	2.500%

③ その他

今後の財団経営とそれを取り巻く経済や金融の情勢を踏まえ、資産運用方針等に関する見直しに向けた検討を開始した。

(2) 基金運用委員会の開催

(開催日)		議題
平成 27 年 8 月 27 日(木)	第 7 回 基金運用委員会	(1) 基金運用の状況と見通しについて (2) 期限前償還となる債券の再投資について

3. 情報公開・広報

(1) 情報公開

「平成 26 年度事業報告書及び計算書類等」「平成 27 年度事業計画書及び収支予算書等」「特定個人情報等の取り扱いについての基本方針」を財団ウェブサイトで公開した。

(2) 広報

ウェブサイトを活用して各種事業およびセンターの活動に関する情報の発信を行った。財団ホームページのページビュー数は、昨年度比 8,454PV 増の 46,971PV、センターホームページのページビュー数は、同比 169,954PV 増の 1,747,879PV であった。

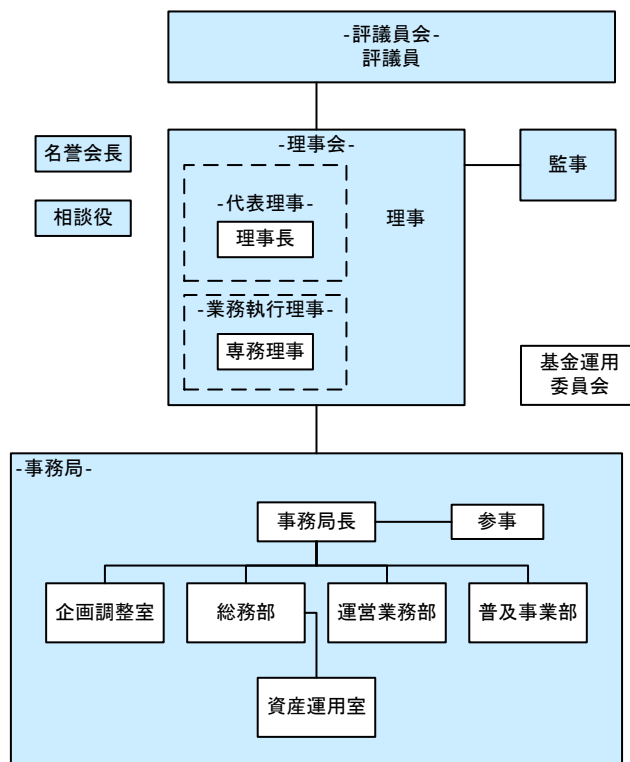
センターの運営を中心に財団の事業活動について筑波研究学園都市記者会をはじめ報道関係機関等に資料配布を行った(16 件(平成 26 年度 14 件))。セン

ターのプラネタリウムや特別展等の活動については試写会・内覧会を開催した。平成 27 年度は、科学万博 30 周年記念事業の効果もあり全国紙の取材件数も増え、取材等の対応件数は 269 件（平成 26 年度 251 件）となった。

4. 業務執行体制

公益財団法人の代表理事として理事長、業務執行理事として専務理事を置き、事務局に企画調整室、総務部（資産運用室含む）、運營業務部および普及事業部を置き業務を行った。

また、「全国科学館連携協議会海外科学館視察研修（イギリス、マンチェスター及びロンドン）」「平成 27 年度全国プラネタリウム研修会・琵琶湖」「全国科学館連携協議会第 2 回国内研修」「労働法セミナー」に職員を参加させて知識・技能の習得等職員の資質向上を図った。



- 組織図 -

※平成 28 年 3 月 31 日時点

5. その他

法令で実施が義務付けられている消防訓練を消防計画に基づき 7 月および 3 月に行った。

事業報告書の附属明細書について

平成 27 年度事業報告については事業報告書に記載のとおりであり、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第 34 条第 3 項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」はないので作成しない。